

2024年度活動概要

日英インタラクシオン研究会

本研究会の目標は以下の2つです。

- 1) 日本語と英語のインタラクシオンの方法や、その背後の文化的価値観の相違を明らかにすること。
- 2) その相違を、どのように英語教育に取り入れ、指導すべきかを検討すること。

本年度は、特にインタラクシオン分析の教育への応用に焦点を当てて研究を行ってきました。以下のように2回の研究会を開催し、また JAAL in JACET 学術交流会においてシンポジウムも開催しました。本研究会の活動から得た知見を活かして、メンバーは海外のいくつもの国際学会で発表も行いました。

最近、インタラクシオン指導の重要性の認識が広まりつつあるのか、研究会やシンポジウムへの参加者数が増えてきています。今後も、現在の日本の英語教育、特に会話の指導に、いかにインタラクシオンからの視点が重要であるかを主張し、その指導方法や効果を明らかにしていきたいと思えます。

第1回研究会

日時：2024年7月7日

発表者：岩田祐子（明治大学）、三浦愛香（立教大学）

タイトル：「高校検定教科書を使用した語用指導の一試案」

概要：日本の高校の検定教科書を使用し、インタラクシオンと語用の指導の可能性について考察しました。

第7回 JAAL in JACET 学術交流会 シンポジウム

2024年12月7日（8月のJACET国際大会において発表予定のものが、台風のためJAAL in JACETでの発表に変更）

発表者：重光由加（東京工芸大学）、岩田祐子（明治大学）、大谷麻美（京都女子大学）、大須賀直子（明治大学）

タイトル：「インタラクシオナル・コンピテンスに着目した英語運用能力の育成：実践報告と課題」

概要：各発表者が、それぞれの視点からインタラクシオン指導の課題と成果を訴え、その指導の重要性を指摘しました。

第2回研究会

日時：2025年2月15日

発表者：三浦愛香（立教大学）、並木一美（立教大学）

タイトル：「日本人英語学習者の語用論的能力および相互行為能力の一端と教育的示唆：依頼と対話の流れに着目して」

概要：話し言葉コーパスに見られる依頼のインタラクションを分析し、語用論・相互行為能力の中でも、実現ができていない部分と不足している部分を明らかにしました。